愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班　提出日：令和６年６月８日　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	230021705
開催日	令和６年６月８日　(土)			
時　間	開　始	13 時 00 分	終　了	18 時 00 分
場　所	ウィンクあいち　1203			
テーマ	輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	小牧市民病院　水野　友靖			
講　師	情報提供「赤血球膜固相法の原理と注意点、その新しい有用性」 株式会社イムコア　丸本　宗正 1.　血液型検査編　豊橋市民病院　中村　藍 2.　不規則抗体・交差適合試験編　市川　潤 3.　製剤管理編　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院　二村　亜子 特別講演「救急医療における輸血の流れ」 豊橋市民病院　救急科　斗野　敦士			
内 容	令和６年度６月研究会は、「輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで」と題して株式会社イムコア共催で研究会を開催した。新年度にあたり新規入職者や異動者を対象に基礎的知識、技術の情報提供を目的とした。血液型検査編、不規則抗体・交差適合試験編、製剤管理編として、基本的かつ重要な輸血医療に関わる情報について各演者から講演いただいた。これらの講義は輸血医療、輸血検査に馴染みの少ない技師の参加者にとって基本から丁寧に解説いただいたことで、非常に有益であった。特別講演では、豊橋市民病院救急科の斗野先生にご講演いただいた。輸血管理部門で準備した血液がどのように現場で使用されるか。を実臨床の経験をもとにご講演いただいた。輸血管理部門の臨床検査技師は輸血検査においては多くの知識を有しているが、臨床現場で医師や医療者がどのような考えに基づいて輸血医療を実践しているかの情報は乏しい。斗野先生のご講演で、現場の臨床医が何を考えて輸血を実施しているのか、我々輸血に関わる臨床検査技師にどのようなことを求めているのか言及された。当別講演は現場感覚を得るのに大変役立った。本研究会は基礎から臨床までを学ぶ良い機会となった。			
参加者	総数：52 名（会員 49 名、県外会員１名、非会員０名、賛助会員２名、学生０名、その他０名）・申込総数：32 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班　提出日：令和６年６月27日　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240000927
開催日	令和６年６月８日　(土)			
時　間	開　始	13 時 00 分	終　了	18 時 00 分
場　所	ライブ配信			
テーマ	輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	小牧市民病院　水野　友靖			
講　師	情報提供「赤血球膜固相法の原理と注意点、その新しい有用性」 株式会社イムコア　丸本　宗正 1.　血液型検査編　豊橋市民病院　中村　藍 2.　不規則抗体・交差適合試験編　市川　潤 3.　製剤管理編　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院　二村　亜子 特別講演「救急医療における輸血の流れ」 豊橋市民病院　救急科　斗野　敦士			
内 容	令和６年度６月研究会は、「輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで」と題して株式会社イムコア共催で研究会を開催した。新年度にあたり新規入職者や異動者を対象に基礎的知識、技術の情報提供を目的とした。血液型検査編、不規則抗体・交差適合試験編、製剤管理編として、基本的かつ重要な輸血医療に関わる情報について各演者から講演いただいた。これらの講義は輸血医療、輸血検査に馴染みの少ない技師の参加者にとって基本から丁寧に解説いただいたことで、非常に有益であった。特別講演では、豊橋市民病院救急科の斗野先生にご講演いただいた。輸血管理部門で準備した血液がどのように現場で使用されるか。を実臨床の経験をもとにご講演いただいた。輸血管理部門の臨床検査技師は輸血検査においては多くの知識を有しているが、臨床現場で医師や医療者がどのような考えに基づいて輸血医療を実践しているかの情報は乏しい。斗野先生のご講演で、現場の臨床医が何を考えて輸血を実施しているのか、我々輸血に関わる臨床検査技師にどのようなことを求めているのか言及された。当別講演は現場感覚を得るのに大変役立った。本研究会は基礎から臨床までを学ぶ良い機会となった。			
参加者	総数：47 名（会員 19 名、県外会員 28 名、非会員０名、賛助会員０名、学生０名、その他０名）・申込総数：133 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班　提出日：令和 6 年 6 月 27 日　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240000916
開催日	令和 6 年 6 月 17 日 （土） ～ 23 日（日）			
時　間	開　始	-	終　了	-
場　所	オンデマンド配信			
テーマ	輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	小牧市民病院　水野　友靖			
講　師	情報提供「赤血球膜固相法の原理と注意点、その新しい有用性」 株式会社イムコア　丸本　宗正 1.　血液型検査編　豊橋市民病院　中村　藍 2.　不規則抗体・交差適合試験編　市川　潤 3.　製剤管理編　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院　二村　亜子 特別講演「救急医療における輸血の流れ」 豊橋市民病院　救急科　斗野　敦士			
内 容	令和 6 年度 6 月研究会は、「輸血医療再入門～検査の基礎から輸血医療の最前線まで」と題して株式会社イムコア共催で研究会を開催した。新年度にあたり新規入職者や異動者を対象に基礎的知識、技術の情報提供を目的とした。血液型検査編、不規則抗体・交差適合試験編、製剤管理編として、基本的かつ重要な輸血医療に関わる情報について各演者から講演いただいた。これらの講義は輸血医療、輸血検査に馴染みの少ない技師の参加者にとって基本から丁寧に解説いただいたことで、非常に有益であった。特別講演では、豊橋市民病院救急科の斗野先生にご講演いただいた。輸血管理部門で準備した血液がどのように現場で使用されるか。を実臨床の経験をもとにご講演いただいた。輸血管理部門の臨床検査技師は輸血検査においては多くの知識を有しているが、臨床現場で医師や医療者がどのような考えに基づいて輸血医療を実践しているかの情報は乏しい。斗野先生のご講演で、現場の臨床医が何を考えて輸血を実施しているのか、我々輸血に関わる臨床検査技師にどのようなことを求めているのか言及された。当別講演は現場感覚を得るのに大変役立った。本研究会は基礎から臨床までを学ぶ良い機会となった。			
参加者	総数：184 名（会員 104 名、県外会員 80 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：371 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班　提出日：令和 6 年 7 月 30 日　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240002648
開催日	令和 6 年 7 月 27 日　(土)			
時　間	開　始	9 時 00 分	終　了	13 時 00 分-
場　所	名古屋市立大学医学部基礎教育棟 4 階微生物実習室			
テーマ	2024 年度 基礎講座（基礎コーズ）			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	豊橋市民病院　中村　藍			
講　師	愛知県臨床検査技師会輸血検査研究班　班員			
内 容	2024 年度基礎講座では基本的な手技の習得を目指す実技講習会として開催した。 スポイト検定、輸血検査のための基本操作・凝集判定を確認した。その後、血液型検査および交差適合試験の実技を実施した。 講習会の最後には学んだ内容を確認するためのチェックリストを受講者と実務委員で確認して学習した内容の振り返りを行った。質疑応答の時間も十分に確保されており、日常の検査で感じている疑問や不安について意見交換できた。 本研修会の対象は初学者、経験の浅い技師だったが、細部に渡る実技と理論の確認により、検査技術の理解が深まったと考えられる。			
参加者	総数：36 名（会員 36 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：36 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：輸血検査研究班　提出日：令和 6 年 7 月 30 日　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240002659
開催日	令和 6 年 7 月 28 日　(日)			
時　間	開　始	9 時 00 分	終　了	16 時 00 分-
場　所	名古屋市立大学医学部基礎教育棟 4 階微生物実習室			
テーマ	2024 年度 中級講座（応用コース） KYT をしながら輸血検査をしてみよう			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	愛知医科大学病院　林　恵美			
講　師	愛知県臨床検査技師会輸血検査研究班　班員			
内 容	2024 年度中級講座は KYT「危険予知トレーニング」によって安全で適正な輸血検査について考える中級者向けの実技講習会であった。 受講生には、1.様々な状況を想定できること、２.追加検査を選択できること、3.安全な輸血なための思考回路を身につけることを目標とした。 ２つの症例に基づいて輸血検査を経験してもらった。症例１ではオモテ、ウラ不一致から追加検査を検討し、最終的に低ガンマグロブリン血症の症例であったことがわかった。症例２では不規則抗体検査で汎反応性の凝集を確認し、自己抗体や同種抗体の存在を考慮して直接抗グロブリン試験や酸解離試験を実施した。温式自己抗体と同種抗体を検出した。 講習会を通じて参加者は様々な予期せぬ反応を想定し、追加検査を適切に選択するトレーニングを行うことができた。たくさんのグループワークを設定することで、施設間を超えた意見交換を行うことができたのは大きな成果であった。			
参加者	総数：41 名（会員 41 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：42 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

活動報告書

所属：輸血検査研究班　　提出日：　令和 6 年 9 月 18 日　　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240008442
開催日	令和 6 年 9 月 14 日(土)			
時　間	開　始	15 時 00 分	終　了	18 時 00 分
場所・配信	名古屋市立大学病院　（所在地　愛知県名古屋市）			
テーマ	「輸血症例検討会～みんなで考えよう！症例を通して学ぶ最適解～」			
生涯教育履修点数	専門教科　20　点			
司　会	藤田医科大学　松浦　秀哲　技師			
講　師	豊川市民病院　沖松秀美 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター　加藤静帆 大同病院　稲生千絵美			
内 容	今回回の研究会は「輸血症例検討会～みんなで考えよう！症例を通して学ぶ最適解～」というテーマで開催した。コロナ禍が始まってから対面での研究会が困難となり、Web での研究会が多くなったが、現地対面開催の価値を再評価するためにこのテーマを採用した。日常的に遭遇し得る症例を扱い、これまでの類似企画とは異なる視点での解説を心掛けた。 D 陰性が疑われる症例では、D 陰性確認試験を実施するという原則論に加え、輸血を行う際に必ずしも血液型を確定する必要がないという例外的な考え方も提示した。3 つの症例を取り上げ、各症例を血液型検査、不規則抗体検査、緊急輸血の視点から捉え、実際の輸血医療を想定した研修会とした。 参加者は、講演中に挙手を求められたり、グループワークに参加したりと、単なる聴講にとどまらない形式に刺激を受けたと思われる。各症例における質疑応答では、提示された症例についての議論だけでなく、日常の業務に関連する疑問や課題についても意見交換が行われ、対面開催ならではの双方向性を実感することができた。今後も対面による研究会の意義を見出し、継続して開催していく意向である。 Web に流れていった参加者が現地に戻ってきてくれるのか？不安は大きかったが、実際には 50 名の定員はすべて埋まった。また、前々日に発生した 2 枠のキャンセルについても即日で埋まる盛況ぶりに会員の現地開催への期待が大きかったことも感じることができた。			
参加者	合計：68 名（会員 49 名、県外会員 1 名、講師 3 名、実務委員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：50 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
　　ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

活動報告書

所属：輸血検査研究班　　提出日：　令和 6 年 12 月 20 日　　報告者：松浦　秀哲

行事種別	講演会		行事番号	240015484
開催日	令和 6 年 12 月 14 日(土)			
時　間	開　始	15 時 00 分	終　了	17 時 30 分
場所・配信	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院　（所在地　　名古屋市）			
テーマ	基礎から学ぶ～免疫療法と造血細胞移植			
生涯教育履修点数	専門教科　　20　　点			
司　会	安城更生病院　山本　喜之　技師 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院　　二村　亜子　技師			
講　師	1.「DLBCL 治療の新たな選択肢～二重特異性抗体　エプコリタマブの有効性　安全性について～」　　アッヴィ合同会社　足立　康 2.「CAR-T 療法って何？～原料採取から投与までの知っておきたい知識と管理～」 名古屋市立病院　　南里　隆憲 3.「造血幹細胞移植の進歩と関連する検査」 藤田医科大学　造血細胞移植・細胞療法学　教授　稲本　賢弘			
内 容	1 講演目は、初めに悪性リンパ腫の分類について説明をしていただき、その後 DLBCL の治療薬である二重特異性抗体 エプコリタマブの有効性・安全性について説明をしていただいた。エプコリタマブの作用機序は T 細胞の細胞膜上に発現する CD3 と B 細胞性腫瘍の細胞膜上に発現する CD20 の両者に結合することにより T 細胞の増殖及び活性化を誘導し、CD20 陽性の腫瘍細胞を傷害するというものである。聴講者からは、この薬剤を使用しているときに FCM の結果はどうなるのか、薬剤の半減期はどうなのかなど活発な質疑が行われた。 2 講演目は、昨今注目されている CAR-T 療法の説明から演者の施設運用までご講演いただいた。CAR-T 療法は県下では実施している施設が少ないが、基本的な内容を丁寧に講演いただいたため聴講者も理解しやすかったのではないかと思われる。 3 講演目は、造血幹細胞移植の基本的な説明、合併症、関連する検査についてご講演いただいた。造血幹細胞移植の合併症として、類洞閉塞症候群（SOS）、閉塞性細気管支炎（BO）などの説明があり、早期発見・対応することの重要性をご説明いただいた。これらの早期発見に必要な検査として、血液や輸血分野の臨床検査技師にはあまり馴染みのない肺機能検査やエコー検査の説明があり、聴講者にとって大変有益な講演内容であったと感じる。			
参加者	合計：87 名（会員 77 名、県外会員 0 名、講師 3 名、実務委員 7 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 1 名）事前参加申込数：97 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
　　ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

活動報告書

所属：輸血検査研究班　　提出日：　令和 7 年 1 月 18 日　　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240020974
開催日	令和 7 年 1 月 11 日(土)			
時　間	開　始	15 時 00 分	終　了	17 時 30 分
場所・配信	名古屋市立大学病院中央診療棟 3 階　大ホール　（所在地　　名古屋市）			
テーマ	令和 6 年度精度管理報告会～輸血検査の精度管理と取り組み方について～			
生涯教育履修点数	基礎教科　　20　　点			
司　会	厚生連江南厚生病院　市川　潤　技師			
講　師	1.「令和 6 年度精度管理報告」 名古屋市立大学病院 南里 隆憲 2.「各種輸血検査精度管理について」 愛知県がんセンター　早川　英樹 3.「輸血検査の基礎と精度管理」 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社　小黒　博之			
内 容	愛知県臨床検査技師会輸血検査研究班の精度管理事業を担当している名古屋市立大学病院の南里技師から令和 6 年度に実施した精度管理の結果について報告いただいた。多くのご施設で良好な結果が出ていたが、一部改善が必要なご施設もあった。精度管理は継続的に改善に臨む必要があることも説明された。 早川技師からは各論的に輸血検査の精度管理について概説された。内部精度管理、外部精度管理をどのように捉えるかという問題は根源的であり、非常に重要な指摘であった。さらに具体的に機材の精度管理方法や精度管理を軸に考えた教育方法、スキル維持について講演があった。 バイオ・ラッドラボラトリーズの小黒様からは輸血検査の基礎と精度管理についてご講演いただいた。試験管内でおこる赤血球凝集反応を基本の原理まで遡ってご解説いただいた。精度管理で見えているものは反応の最終結果であり、原理を知ることでその過程で生じるエラーを的確に捉えるのに極めて有用である。 今回は 3 名の異なる視点から輸血検査の精度管理を考える会となり、参加者にとって多くの学びを提供できたと考えている。			
参加者	合計：35 名（会員 29 名、県外会員 0 名、講師 3 名、実務委員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 1 名、その他 0 名）事前参加申込数：18 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
　　ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

活動報告書

所属：輸血検査研究班　　提出日：　令和 7 年 1 月 18 日　　報告者：松浦　秀哲

行事種別	研究会		行事番号	240020974
開催日	令和 7 年 1 月 20 日(月)～27 日（月）			
時　間	開　始	―	終　了	―
場所・配信	オンデマンド配信			
テーマ	令和 6 年度精度管理報告会～輸血検査の精度管理と取り組み方について～			
生涯教育履修点数	基礎教科　20　点			
司　会	厚生連江南厚生病院　市川　潤　技師			
講　師	1.「令和 6 年度精度管理報告」 名古屋市立大学病院 南里 隆憲 2.「各種輸血検査精度管理について」 愛知県がんセンター　早川　英樹 3.「輸血検査の基礎と精度管理」 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社　小黒　博之			
内 容	愛知県臨床検査技師会輸血検査研究班の精度管理事業を担当している名古屋市立大学病院の南里技師から令和 6 年度に実施した精度管理の結果について報告いただいた。多くのご施設で良好な結果が出ていたが、一部改善が必要なご施設もあった。精度管理は継続的に改善に臨む必要があることも説明された。 早川技師からは各論的に輸血検査の精度管理について概説された。内部精度管理、外部精度管理をどのように捉えるかという問題は根源的であり、非常に重要な指摘であった。さらに具体的に機材の精度管理方法や精度管理を軸に考えた教育方法、スキル維持について講演があった。 バイオ・ラッドラボラトリーズの小黒様からは輸血検査の基礎と精度管理についてご講演いただいた。試験管内でおこる赤血球凝集反応を基本の原理まで遡ってご解説いただいた。精度管理で見えているものは反応の最終結果であり、原理を知ることでその過程で生じるエラーを的確に捉えるのに極めて有用である。 今回は 3 名の異なる視点から輸血検査の精度管理を考える会となり、参加者にとって多くの学びを提供できたと考えている。			
参加者	合計：102 名（会員 52 名、県外会員 50 名、講師 0 名、実務委員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：154 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
　　ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）